

一般社団法人室内環境学会 2019 年度 第 2 回臨時理事会議事録

日 時：平成 31 年 1 月 28 日（月）16:00～18:30

場 所：(株) アイデック 3 階 会議室

出席者

理事：関根嘉香（理事長）、山口 一、篠原直秀、水越厚史、鍵 直樹、三宅祐一、Tin Tin Win Shwe 、
徳村雅弘

監事：野口美由貴

事務局：橋本一浩（事務局長）、萬羽郁子（会計）、色摩 操

欠席：一條佑介、中島大介、小沼ルミ

本理事会は総理事数 9 名のうち過半数である 8 名が出席していることから、定款第 34 条により成立した。
また同第 33 条により、本理事会の議長は関根理事長が務めた。

議事次第：

1. 平成 30 年学術大会報告

鍵大会長より平成 30 年学術大会について報告があった。口頭発表 60 題、ポスター発表 79 題が集まり、参加者 348 名、機器展示 13 社と盛況な大会となった。各発表、シンポジウム、分科会セミナー、学生懇談会、懇親会など予定の行事は全て無事に終了した。収支は大幅な黒字になる見込みで、この要因としては参加者が多かったこと、昨年に続き要旨集を電子配布としたこと、看板を自作したことが挙げられた。大会長奨励賞は口頭発表 2 題、ポスター発表 4 題に授与し、更に今年度は大会長技術賞を設け、口頭発表 1 題に授与した。出席理事より、大会長奨励賞の規定が現状とギャップがあると指摘があり、改定案を作成することになった。また次年度への申し送り事項として鍵大会長より以下のコメントがあった。

- ・今後も要旨集を電子配布する場合は、要旨提出の締め切りを 10 月末にしても間に合うだろう。
- ・口頭発表の PC は各自持参としたが、トラブルが何件か発生した。今年の収益を活用して発表用 PC の購入を検討しても良いのでは。

この後、実行委員会を開催して大会を総括し、収支決算とともに最終的な報告を次回理事会にて行う予定とのこと。

2. 各委員会報告

学術委員会：各分科会の活動計画書が提出されたが、環境過敏症分科会は正会員の割合が低く、他分科会と比較しアンバランスなメンバー構成になっている。次回理事会までに人数制限等のルールを考え、非会員の入会を促したいとのこと。また、研究助成として寄付頂いている助成金の用途を変更し、学会賞を新設することを検討中（篠原委員長）

出版委員会：今年も学会誌を 3 号発刊する。また、後述のように学会誌投稿規定を大幅に改定する予定（徳村委員長）

事業委員会：来月に大阪講演会を開催予定。また 9 月の JASIS も講演会場を確保しており、現在講演テーマを検討している（山口委員長）。

社会連携委員会：12 月の大会における国際シンポジウムの準備を行っている。今回は台湾、韓国だけでなく、ミャンマーやタイなど東南アジア諸国からも演者を招待したい。また、現地・沖縄の会員にも演者の打診をしたい（三宅委員長）

広報委員会：学会 HP、大会 HP、Facebook などの運営を行っている。今年はメディア取材への対応方法

について整備していきたい（水越委員長）

標準法認定管理委員会：例年通り、標準法および商標の審査・認定を行う（鍵委員長）

3. 分科会設立申請

申請された4分科会（「微生物分科会」、「燃焼器具分科会」、「微粒子分科会」、「災害時室内環境分科会」）はいずれも承認された。

4. 学会誌の投稿規定および内規の改定案

徳村出版委員長より、学会誌の投稿規定および内規の改定案が以下の通り提案され、それぞれ議論した。

【投稿論文の電子投稿】

査読プロセスを円滑にするために、郵送を廃止し、メールによる投稿・査読を行いたいとのこと。メール誤送信なども課題だが、メリットの方が大きいだろう（関根理事長） → 賛成多数で改定へ。

【原稿種類の改定】

現在、「原著」「短報」「総説」「解説」「講座」「技術資料」「調査資料」などがあるが、投稿の少ない種類は廃止または統合し、「特集」や「症例報告」など最近投稿が増えてきた項目を新設とのこと。 → 賛成多数で改定へ。種類については出版委員会で引き続き検討する。

【掲載費用の明確化】

掲載費用は著者負担とあるが、実際は無料。この現状に合わせて、掲載費用が無料である旨を明記する。 → 賛成多数で改定へ。

【行番号の追加】

投稿原稿に行番号を表記することを義務化する。 → 賛成多数で改定へ。また投稿原稿のテンプレートを作成することになった。

【倫理・利益相反に関する規程の明確化】

投稿票に研究倫理に関する新たなチェック項目を設ける。 → 賛成多数で改定へ。一方、利益相反に関する改訂は今回は見送り、慎重に検討することになった。

【著作権移譲同意書の電子化】

現在は郵送だが、これを電子化・メール提出を可能とする。また、筆頭・共著者全員の署名が必要だが、今後は責任著者のみの署名とする。 → 賛成多数で改定へ。

【査読報告書の押印の省略と電子化】

時間と輸送費節約のため電子化・メール提出を可能とする。 → 賛成多数で改定へ。

【J-stageの先行公開期間の廃止】

受理後1年間は会員限定公開としているが、これをすぐにオープンアクセス公開とする。これに対し、出席理事から会員のメリットを守るために慎重になるべき、との意見が出された。最終的には、「原著・短報」などはオープンアクセスとし、「解説・総説」などは従来通り会員限定の公開にすることで同意された。また、薫風と研究室紹介は従来通りJ-stageでの公開はしないこととした（Facebook等で紹介する）。

【推薦図書】

推薦図書を毎号載せられるほど出版されていないので、廃止にするか自薦を認め、また不定期に掲載にするという案。 → 不定期掲載することで同意された。

5. H30年学術大会における取材対応告

水越広報委員長より平成30年学術大会へあった取材申込への対応結果が報告された。資料に基づき、取材申込～当日の対応～原稿のチェックなど後日対応の流れまでが説明された。今回は複数件の取材申込があった

が、取材内容の掲載媒体が具体的に決まっていた2社のみ取材を受け入れ(参加費無料)、掲載先が未定・情報収集を目的とした申込に関しては、一般申込での参加をお願いしたとのこと。今回の対応結果を踏まえ、取材申込書の書式を改定予定。

6. その他

- ・事務局より平成30年11月～平成31年1月の入会希望者5名(正会員5名)のリストが提出され、全員の入会が承認された。なお定款改正に伴い、今後は電子メールにて入会希望者の承認を行う。
- ・会員動向として、平成31年2月28日時点で正会員367名、法人会員47社(団体)、学生会員58名、シニア会員8名であると報告された。

以上

署名欄

関根嘉香

印

山口 一

印

篠原直秀

印

徳村雅弘

印

鍵 直樹

印

水越厚史

印

三宅祐一

印

Tin Tin Win Shwe

印

一條佑介

印